

リニア時代を迎える飯伊地域の資源（9）

赤石山脈（南アルプス）（6）飯伊地域（その2）

～飯伊地域の中心で南アルプスを考える～

リニア開通を見据えた当地域の南アルプスについての取り組みについて。前号で紹介した前飯田山岳会会長伊藤康徳氏に再度ご登場いただきお話を伺い、まとめた。

■多様化への対応

最近の山岳観光の状況について、ゴリゴリのピークハンターは必ずしも多いとはいえないが、中高年登山者など裾野が広がり「登山というよりトレッキングを楽しむという感じになっているのでは」（伊藤氏）という状況がある。「大人数での登山というより、個人単位での行動を重視する傾向にある。ツアーの利用や、個人登山で山岳ガイドを利用して登っているのがみられる」。「これからは山岳ガイドの充実がキーになる」

（同）という。当地域にも山岳ガイドの団体があり、期待できるという。



しらびそ峠からの眺望

左端：荒川岳、右へ大沢岳、中森丸山、兎岳、立俣山
右端：上河内岳

■登山ルート of 現状と今後の課題

飯伊地域の登山ルートの現状について、「大鹿村から小渋川を辿って赤石岳に登るルートは現在荒れていて登れる状況にないとのことだった。新型コロナウイルス後の登山を考えると、当地域では三伏峠から南アルプスの稜線に上がると聖岳を超えて飯田市南信濃の便カ島、易老度まで行かなくてはならない。あるいは静岡県側に下山することになり、体力・日数を要するルートとなる」（同）。

「静岡県に下山」と言っても、今シーズン、南アルプス南部の山小屋・ロッジは、新型コロナ対応により、長野県側・静岡県側とも公営、私営を問わず閉鎖となっている。そのため、畑薙第一ダムから先の樫島や二軒小屋方面へ向かう送迎バス（特殊東海フォレスト運営）も運休している。静岡駅から畑薙第一ダムまでを運行する一日往復1便の南アルプス登山線（静岡鉄道）は、本年7月13日から8月25日までは運行を予定している（同社HP）。

「便カ島までのコースだと日数を要するため、大沢岳辺りで長野県側へ下山できるルートがあると都合がよいのだが、しらびそ峠からの林道は、いまでも地形図に載っているが、何箇所も崩落していて利用できない状態。以

前はこの林道の途中から沢に向かって降りることができ、大沢渡で北又沢を渡って大沢岳に向かう登山道を辿ることができた。是非とも復旧して欲しいが、これだけ崩落していると復旧はかなり難しいかも知れない。かつて飯田市最高峰である聖岳へロープウェイを架ける提案を市にしたことがあるが、これも困難との回答だった」(同)。

「いま、実現性が高いと考えているのが、大沢岳の隣りの兎岳へ直接向かうコース。兎岳から笠松山への稜線に登山地図などには載っていないが、踏み跡がついていて登山道として使用できる。易老度手前から遠山森林鉄道跡の道から入り、笠松山へ上り兎岳への登山道を確定できれば赤石岳方面からのルートカットができる他、兎岳→聖岳→上河内岳→便力島登山口といった新しい循環コースができるのではと期待している」(同)。



北又沢と遠山森林鉄道の軌道跡
(飯田市南信濃)

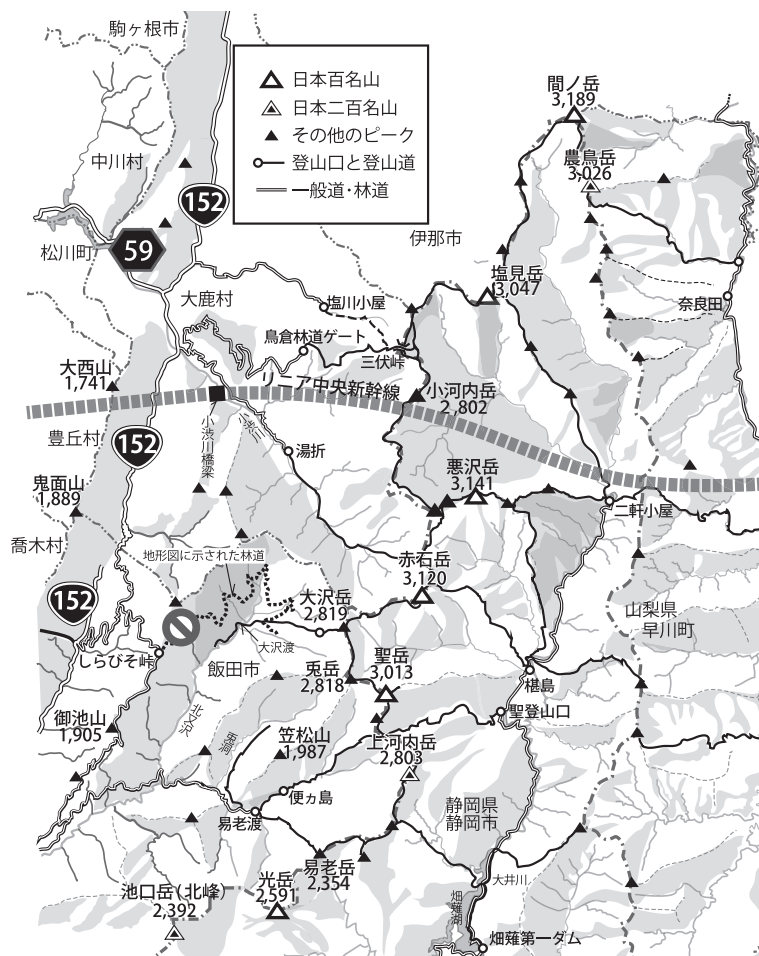
■アフターコロナを見据えて

本年の南アルプスを巡る現状は、コロナ禍による登山自粛の呼びかけと山小屋等の3密対応の難しさによる軒並み閉鎖により、長野・山梨・静岡の3県とも事実上の入山不能状態となっている。山へのアクセス手段は、前述の南アルプス登山線の他は、山梨県の南アルプス市(夜叉神峠経由)や早川町方面(奈良田経由)のバス路線(山梨交通)、長野県の北沢峠へ向かう南アルプス林道バス運行(伊那市営)と大鹿村の南アルプス登山バス鳥倉線(伊那バス)はいずれもコロナ対応のため今シーズンは運休となっている。

崩落による道路の通行止めも各所でみられる。この閑散のシーズン中に、関係各方面で復旧に努めていただく、という考え方もできるかも知れない。

「新しい生活」により登山・山岳観光の大きな変化に直面する中で、コロナ禍が去った後、当飯伊地域の南アルプス登山・観光の復活を期して考え、準備していくことが重要ではないか。

南アルプス南部と伊那山地概略図



(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア対策三遠南信対策室 加藤 修平)